

私たちは被災地が見えているのか……

「東日本大震災」から4年。

被災した多くの人々の困難を乗り切る生活者としての様相を、被災者や被災地に寄り添いながら、被災直後から現在に至るまで、さまざまな分野の研究者によってまとめられた〈モノグラフ〉！

調査報告集

復興の過程や、それらに起因したまちづくり・ボランティア活動・コミュニティの実際、さらにはメディアの情報発信のありようなどを、社会学・防災学・統計学や地理学・心理学など多様な研究分野からさまざまな角度で分析・検証し、これからも起こり得るであろう多くの災害へ立ち向かうための震災誌の一つとして、総勢31名による28点の論文をまとめた大著。後の時代を生きる人々への好個の資料として刊行！

東日本大震災と被災・避難の生活記録

吉原直樹・仁平義明・松本行真 編著

A5判・上製・766頁 定価：8,000円＋税 ISBN978-4-905421-80-1

推薦のことば

小泉秀樹

こいずみ ひでき
東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻教授

いま、東日本大震災からの復興の現場では、多様な主体による種々の事象が、同時に、異なるベクトルをもって進行している。

復興のあるべき姿を描出するためには、そうした一つひとつの事象や事業の実像を描き、その意味について被災者の立場から吟味し、関連主体で共有する事が不可欠と考えられる。しかし、復興に関わるおのおのの主体は、おのおのの事業やプロジェクトを推進することに注力はしているが、それら、そしてそれらの集合が、被災者の立場からみて復興につながるものであるのか、確認できないまま時間がただ経過している。本書では、こうした復興現場の状況に対して、被災地の復興を生活世界の観点から、肝要と考えられるポイントを、さまざまな分野における気鋭の著者群の視点をもって抜き出し、復興をめぐる多様なモノグラフの集成として、被災地のいまをクリアーに描き出している。

本来的な意味での復興にむけて、何を考え何をなすべきか？ 改めて問い直すことが必要ないま、アカデミアのみならず、復興まちづくり／コミュニティデザインの実践者にとっても必読の書である。



2015年
3月11日
刊行

六花出版

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-28
電話 03-3293-8787 FAX 03-3293-8788
<http://rikka-press.jp>

注文カード

帖合・貴店名



国道沿いの畑に積み上げられた汚染土袋
(福島県楡葉町・2013年6月5日)



塩竈市港町のフランス料理店シェナーによる炊き出しの様子
(宮城県塩竈市立第二小学校・2011年3月26日)



津波によって被災した「旧・女川交番」
(宮城県女川町)

目次

東日本大震災と被災・避難の生活記録

第一部 復興とまちづくり

復興とまちづくり

東日本大震災と東北圏広域地方計画の見直し

終わりなき「中間」のゆくえ——中間貯蔵施設をめぐる人びと

建設業の公共性と地域性——東日本大震災復興事業調査の中間報告

震災からの商業地の復興——田老地区仮設商店街・たちやんハウスを事例として

震災遺構の保存と防災教育拠点の形成

災害記憶とその継承のための仕組みに関する考察——東日本大震災の記憶継承に向けて

震災まちづくりにおける官民連携の課題——福島県いわき市平豊間地区を事例に

東日本大震災復興に向けた組織の現状とその類型——いわき市被災沿岸部豊間・薄磯・四倉地区を事例に

東日本大震災復興に向けた組織の現状とその類型——いわき市被災沿岸部豊間・薄磯・四倉地区を事例に

菅野瑛大(福島工業高等学校・松本行真)

第二部 コミュニティ・ネットワーク・ボランティア

災害の避難空間を想像するフィールドワーク——内部者として、外部者として

災害支援NPOと地域コミュニティ——越境する災害文化と鍵を握る平時からの協働

顕在化した都心のデイバイド——仙台市中心部町内会と避難所の関わりから

災害対応におけるイノベーションと弱い紐帯——仙台市の官民協働型の仮設住老人居者支援の成立と展開

菅野拓(阪神淡路大震災記念人と防災未来センター研究員)

長期避難者コミュニティとリーダーの諸相——福島県双葉郡楡葉町・富岡町を事例に

菅野拓(阪神淡路大震災記念人と防災未来センター研究員)

沿岸被災地における「安全・安心」の社会実装に向けた課題——福島県いわき市平豊間地区を事例に

山田修司(東北大学大学院博士課程・松本行真)

自主防災組織と消防団との連携のあり方——宮城県東名地区の事例

後藤一蔵(東北福祉大学兼任講師)

地域防災における学校施設の拠点性——釜石市唐丹地区を事例として

竹内裕希子(熊本大学准教授・須田雄太(京都大学大学院修士課程・シヨウ ラジブ(京都大学教授)

原発事故避難者による広域自治会の形成と実態——福島県双葉郡富岡町を事例に

吉原直樹

コミュニティ・オン・ザ・ムーブ——破局を越えて

第三部 被災後の生活と情報

いわき市へ避難する原発避難者の生活と意識

川副早央里(いわき明星大学客員研究員・浦野正樹(早稲田大学教授)

福島第一原子力発電所事故による避難者の生活と選択的移動

佐藤真理子(福島県立喜多方高等学校)

——人的資本論にもとづく「大熊町復興計画町民アンケート」の分析

原発災害避難者の食生活のいま

学校での災害発生時における避難や避難所対応について——東日本大震災発生時の豊間小・中学校等の事例から

瀨谷貞一(福島県立いわき総合高等学校)

大学の防災における安否確認に関する考察——首都直下地震に対して東日本大震災からどのような教訓を得るのか

地引泰人(東北大学助教)

福島第一原子力発電所事故後の風評被害と心理的「一般化被害」——「絆」はほんとうに強まったか

仁平義明(白鷗大学教授・東北大学名誉教授)

放射能は「地元」にどのように伝えられたのか——自治体による情報発信と報道に注目して考える

東日本大震災後の仙台市の病院・診療所に関する支障と情報ニーズについての分析

関根良平(東北大学助教)

原発災害をめぐる大学生の態度

地引泰人・大原美保(独立行政法人土木研究所主任研究員・関谷直也(東京大学特任准教授・田中淳(東京大学教授)

本多明生(山梨英和大学准教授)

冊

発行 六花出版

吉原直樹・仁平義明・松本行真 編著

東日本大震災と

被災・避難の生活記録

定価：八、〇〇〇円＋税

ISBN978-4-905421-80-1

注文数

お名前

お電話番号

注文 年 月 日